

# とわわとねねねの悪戯 記録

CHRONOM

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

いたずら好きだどこかおちよこちよいな先輩、常闇トワ

何事にもポジティブシンキングで何かと不幸な桃鈴ねね

彼女たちは今日も同じ事務所のメンバー達にいたずらを仕掛けようとしています

⋮

果たしてうまくいくのでしょうか？

# 目次

今日のいたずら	# 1	1
今日のいたずら	# 2	6
今日のいたずら	# 3	13
ねねねの逆襲		19
今日のいたずら	# 4	25
今日のいたずら	# 5	30
今日のいたずら	# 6	37
今日のいたずら…?		43
今日のいたずら 2ndフェス編		48
今年最後の…		54
最終回 これからの1年を…		61



# 今日のいたずら #1

ホロライブプロダクション

そこには、アイドルを目指し

人間であるかを問わず天界、魔界、宇宙から多くのVtuberが所属している

そしてここにも

ねね「ふんふんふんふん♪今日も配信楽しかったある♪」

桃鈴ねね

タオタオ星はタオタオ村からアイドルを目指してやってきた

彼女は今日もYouTubeでの配信を終え、事務所へ遊びに来ていた

ねね「おはよあるー！」

元氣よく開けたドアの先には



おかゆ「まーたトワがなんかやってるねえ」

フブキ「うむうむ、若いねえ」

ミオ「ねえ、止めたほうがいいんじゃない…?」

それを遠巻きに見つめる人物達

猫又おかゆ、白上フブキ、大神ミオの3人だ

フブキ「面白そうだから見ていよう（トワちとねねちなら大事にならないよ）」

おかゆ「ほつといたほうが面白い展開になりそうだし（トワとねねちゃんなら大丈夫でしょ）」

ミオ「本音と建前が逆になってるよ、ってか本音も建前もひどいな!？」

ドアの事務所のドアの死角に隠れるトワとねね

次にドアを開けた人物をターゲットにすると決めたようだ

コツ、コツ、コツ

と足音が近づいてくる

トワ（くるっ!）

ねね（いくある!）

ドアが開くのを見て2人が動く

まつり「こんにちうわっしょい！」

入ってきたのは夏色まつり チア部に所属する自称清楚の女の子だ

そこへ2人はためらいなく飛び出した

トワ・ねね「ばあああああああああああ!!!!!!」

まつり「ぎゃあああああああああああ!!!  
ホラーが苦手なまつりは顔を真っ青にして暴れだす  
!!!!!!」

トワとねねは予想以上に驚かれてあわわしている

トワ「ま、まつりちゃん! ドツキリ! ドツキリだから!」

ねね「まつり先輩! これはいたずらで」

まつり「こつちくんあああああああああ!」

ドゴオ! ドゴオ!

暴れるまつりの拳がトワとねねの顔面にめり込む

トワ・ねね「ムギユ」

2人のつけていた仮面は粉々になり、2人は後ろにばたりと倒れのびてしまった

2人のつけていた仮面は粉々になり、2人は後ろにばたりと倒れのびてしまった



まつり「あれ?とわち?ねねちゃん!?ちよつと!?どうしたの!」

正氣に戻ったまつりは目の前に広がってる光景に驚き、二人をゆすり起そうとする

が、完全にのびてしまっていた

おかゆ・フブキ「ね?面白くなったでしょ?」

ミオ「ね?じゃなあああい!いいから早くちよこ先生呼んできてえええええええええ  
!!」

トワ様とねねちのいたずらはまだまだ続く(かも)

## 今日のいたずら #2

ホロライブ所属アイドル達の憩いの場

事務所

そんな事務所に今日も悪戯好きのあの子が来ているようです。

トワ「あー！ー！む、ううー！ーん！あつまーい！」

そう、常闇トワその人である

ソファアに座った彼女は皿に広げたプチシューを頬張っていた

ねね「あー！とわわ先輩ずるいある！自分だけプチシュー食べて！」

トワ「悪魔だしくずるだつてするっしょく？」

ねね「ぐぬぬぬう！ねねにも！ねねにもくださいあるとわわ先輩！」

一緒に事務所にいたねねがプチシュー欲しさにトワへとおねだりをしてくる

それを見たトワは

トワ「仕方ないなく、ほいっ」

ねね「あんむ」



ねね「なんでいつも悪戯一回目がねねがターゲットになるあるか!？」

トワ「別狙ってるわけじゃないよ、ただいつも都合よく近くにいただけ」

ねね「ようはちかくにいたからってことじゃないですかあ!!!」

結果いじられてるといふことに対してねねは地団太を踏んでいる

トワ「まあまあ、じゃあさこれを今度はねねが他の人に仕掛けてみようよ」

ねね「えー…また失敗したら痛い目にあう気がするある…」

トワ「大丈夫、トワが付いてっから!」

ねね(ある意味それが不安あるよとわわ先輩…)

「ちわーっす、収録疲れた〜」

「お余?トワちゃんにねねちゃん?こんなきり〜」

「なにになに?今日は2人だけ?」

別室で収録していた

大空スバル、百鬼あやめ、大神ミオの3人が事務所へと入ってきた

ねね「あ、先輩方お疲れ様ある！」

トワ「スバルちゃん達収録だったんだね、お疲れ様〜」

スバル「まあ、スバルだってアイドルだからね」

トワ「疲れたでしょ？」

甘いもの欲しくない？」

トワはその言葉を放つと同時にねねにアイコンタクトする

ねねもそれに反応し行動に移る

ねね「お疲れの先輩方にプチシユアのプレゼントある！」

あやめ「お〜いいねえ」

スバル「せっかくだしもらおっかなあ〜」

あやめとスバルは何のためらいもなく手を伸ばす

しかしミオは

ミオ「ちよつと待って

な〜んかおかしくない？」

スバル「ん？ミオしやどうかしたつすか？」

ミオ「随分準備がいいなあと思ってさ、プチシユアわざわざさらに広げてるって辺り

がさ」

ねねとトワは内心汗だくだがとりあえずそのまま進行する

ねね「なななななんいも悪いものなんて入ってないあるよ…」

トワ「きききききききのせいだよ…」

スバル・あやめ・ミオ（これなんか仕掛けたな?）

スバル「なあトワ、ねねちゃんなんも悪いものはいってないってんならさ

2人がまず食べな?」

ねね・トワ「……え?」

ねねとトワは顔を見合わせる

このままでは自分たちだけがからし入りのプチシューを食べることになる

ねね「し、しかたないあるね〜!」

ねねが焦りながらも1個手に取り

口に放り込む

ねね「あつまー……い!おいしいある〜!」

4人「あれええええええええええ!?」

絶対何か悪戯がされていると思っていた3人、そして仕掛けたトワ自身はすぐく驚い



あやめ「いたい！口の中がいたい！」

トワ「うつぶ…うぐう…」

ミオ「う、うぐ

ゴポオ」

ねね「あ、あれ？ミオ先輩!?ご、ごめんある!!!はぁーん！こんなまでなると思ってたな  
かったあるー!!!ちよこ先生！ちよこせんせい!!!」

悪戯は成功したがやりすぎの領域だったようである…

悪魔の悪戯は失敗したが

後輩の反撃は成功した

これも一種の因果応報

悪魔の悪戯リベンジはおそらく続く



## 今日のいたずら #3

ホロライブ所属アイドル達の癒しの場

事務所

今日も悪戯好きな悪魔が何時か企んでいるようです

トワ「さーて、今日はどうしよっかなあ」

ねね「とわわ先輩…またやるあるか…？毎回失敗してるあるよ…」

トワ「別にトワのせいじゃないから！何かとタイミング悪かったりするのは全部世界が悪い！」

ねね「世界って…突然ヘイトが凄いとこに向かったある…」

今日も事務所に遊びに来ていたねねを巻き込んで悪戯の作戦会議中

しかしこここのところの失敗続きでねねは乗り気ではなかった

ねね「まずはターゲットを絞ってどんなことを仕掛けるか考えればいいんじゃないか？」

トワ「んーでも仕掛けるとしたら誰だろう？」

すると

ガチャツ

ぼたん「あ、トワ先輩、ねねちもいるじゃん、どつたの〜？」

ポルカ「トワ様もしかしてまーた悪戯ですか？ねねがいるってことはそうですね  
？」

ねねの同期であるホロライブ5期生

ホワイトライオンの獅白ぼたん、サーカスおまる座座長の尾丸ポルカが事務所へと  
やってきた。

トワ「げっ」

ぼたん「〔げっ〕とはひどいじゃないですか先輩」

ポルカ「大丈夫ですって、むしろあたしたちトワ様の悪戯協力したいくらいで」

ねね「ししろんとおまるんが？」

トワとねねはニヤリと笑う

多方面に頭の回るこの2人を加えれば今度こそ失敗しないはず

トワ・ねね「「ぜひ」」

ぼたん「とポルカもニヤリと笑うと」

ぼたん・ポルカ「「そーこなくつちや」」

4人はがっしりと握手を交わす

ぼたん「で、ターゲットなんですけど…」

ガチャリ

事務所のドアが再び開く

ラミイ「みんなお待ちせう、あれ？トワ先輩もいらしたんですか？」

雪国出身の令嬢雪花ラミイ、彼女もホロライブ5期生である

トワ「ラミイちゃんお疲れ、ちよつと用事があつてさ」

ラミイ「ラミイはししろんからいいお酒が手に入ったから試飲しないかって言われて」

ぼたん「あ、ラミちゃんおつおつ待ってたよ」

そう言つてお盆に紙コップを入れたぼたんがやつてくる

ポルカ「へえ、これが獅白がいつてたやつ？」

ねね「ん〜！みんなぼっかりするいある！ねねだつて飲みたいのに！」

※桃鈴ねねちゃんは19歳です

トワ「はいはい、未成年はジュースね」

ねね「とわわ先輩だつて17歳ある！」

トワ「悪魔は17でも飲んでいいんだも〜ん」

ねね「はあ〜——ん！そんな〜！意地悪ある〜！」

ポルカ「てなわけでき、酒飲める組全員は用意したお酒、ねねはこのジュースね」  
全員が紙コップを手にする

ラミイはどんな味のお酒なのか気になって目をキラキラとさせている

が、はいたずら

当然入っているお酒もただのお酒ではない

ポルカ（ラミイのカップに入ってるのは度数96度のスピリタス！）

トワ（常人が飲んだら絶対リアクションするはず！）

ねね（勝った！第3部！完！）

他4人のはただの炭酸水である

果たしてラミイのリアクションは…

5人「乾杯！」

グイッと5人一斉に飲み干す

すると

バタン！バタン！バタン！

トワ、ポルカ、ぼたんの3人が倒れる

ラミイ「ん？これただの炭酸水…？つて？みんなどうしたの!?先輩!?ししろん?!?おま

るん!!!?

ねね「あつ…あれ？3人ともどうしたある!?あれ!?あれえ!?!」

ポルカ（しまった…ほかのアルコール組はめるためにスピリタス入れたつもりが…）

ししろん（スピリタス入れられてたみたいだったから順番いじったはずが…）

トワ（ししろんが置き場所いじってたから元に戻したつもりが…）

3人（（どうしてこうなった…!））

ねね（もしかして…みんな陰で悪戯しあってたある…?）

ラミイ「ちよこ先生！ちよこ先生いませんか!!!？」  
ねね（やーっぱり失敗したある…いや、ある意味成功かも…？）  
悪戯悪魔も少しは反省するのでしょうか？  
今後悪戯は続く（はず）

## ねねねの逆襲

ここはホロライブメンバーの心のオアシス

事務所

ですがそんな事務所ですらいつも悪戯を働く悪魔は

トワ「ロボ子てんばい！そっち敵いきました！」

ロボ子「あいよー、カバーよろしく！」

ちよこ「すいません、回復しますね」

バーチャルロボットのロボ子さん

魔界学校のバーチャル保険医の癒月ちよこ

2人の先輩と一緒にゲームの最中だ

遠くからその様子を桃鈴ねねと尾丸ポルカが見守っていた

ポルカ「いやー、ほんと先輩方のA○EXはすごいなあ、連携もだけどー人ー人がうまいから」

ねね「んむむむむう…」

ポルカ「んあ？どったのねね？」

ポルカの問いに考えこんだ表情でねねが答える

ねね「いや、今こそ日ごろとわわ先輩に巻き込まれてる反撃のチャンスなのかなって」

ポルカ「真面目な顔で何言ってるんだお前？変なところでトワ様に似て来たな」

ねね「最近巻き込まれてばかりだからちよつとびつくりさせるくらい許されてしかるべきだと思うんだ」

ポルカ「まあ、いいけど…：どんなことすんの？」

ねね「うーん、それが思いつかなくて…」

視線をトワ達の方に戻すと

「YOU ARE THE」

「CHAMPION」

3人「「ないすうううううううう！」」

3人がマツチに勝利しハイタッチしていた

すると

ガチャツ

事務所のドアが開き



おかゆ「あれゝみんな集まつてるゝ？なにになに？どういう集まりゝ？」  
おにぎり屋さんの猫、猫又おかゆが入つてきた

おかゆ「お？ちゃんぽんとしてんじやくん、やるねゝトワゝ」  
と、トワの方に寄りかかつていく

トワ「ちよ?!?おかゆやめっ！くつつかない！」

おかゆ「いやゝレツスン疲れちやつたからさゝ」

ロボ子「お熱いねゝご兩人ゝ」

ちよこ「ほんと、熱すぎてまいってしまいますね」

おかゆのダルがらみにロボ子とちよこが乗つかつてトワをいじっている

トワはおかゆに寄りかかれてるのを振りほどこうとするがまんざら悪い気はして  
いないようである

ポルカ「いやーおかゆ先輩も罪な女だなあ、ん？どつたねね？」

ねね「ねねもおかゆ先輩に寄りかかつてほしい」

ポルカ「おい、悪戯はどうした」

ねね「…いや、これは参考にできるかも知れない…」

ねねはニヤリと悪い顔をして微笑む

ポルカは（いやな予感がする）と思いつつ  
ポルカ「で、どうするん？」

ねね「トワ先輩に後ろから抱き着く」

ポルカ「ワンチャン殺されるぞ」

ねね「とわわ先輩は天使だからそんなことしないって」

ポルカ（失敗しても知らんふりをしておこう…）

ポルカは巻き添え回避するためにその場にとどまるが、ねねはバレないようにトワの背後へと近づいていく

A〇EXをやっている3人はすでに次のマッチに入っていて画面に集中している

ねねはそれを確認すると

ねね「とわわせーんばい！」

トワ「ちょ!?!ねねね!?!今マッチ中！」

バタバタとねねを引きはがそうとするトワ

当然手はマウスキーボードから離れる

おかゆ「ねねちゃん！それはさすがにまず」

【部隊全滅】

ロボ子・ちよこ「あ」

トワ・ねね「あ」

おかゆ「あー…」

ポルカ（だーから止めとけばいいのに…）

トワが手を放している間に敵に襲撃され、部隊は全滅  
当然といえば当然である

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ねねは本能的に感じた

自分が今抱き着いている人物からあふれ出る

殺気



## 今日のいたずら #4

ホロライブメンバーの自由の象徴

事務所

今日も悪戯好きな悪魔は何か企んで…

ちよこ「もう、トワ様！最近悪戯がすぎてますよ！」

トワ「んぐ…」

いたのですが、

最近の悪戯の失敗続きで毎度呼び出されていたちよこ先生から説教の真つ最中だ

ちよこ「悪戯するなら怪我人や倒れるなんてことがないようにもつと安全に考慮して

くださいね？」

トワ「スピリタスはトワだけのせいじゃないし…」

ちよこ「言い訳しない、一枚かんだ時点でトワ様も同罪ですよ？」

トワ「…はあい」

ちよこ「わかったならよし、じゃあちよこはちよつと仮眠とりますね〜」

そう言ううちよこはソファーに横になるとすやすやと寝息をかき始める

トワ「ぬう…さすが一流悪魔…トワ一人じゃ全然歯が立たなかった…」

ねね「いや、とわわ先輩ただ説教されてただけですよね…?」

トワ「う、うっさいねね…」

説教を逃れていたねねがやってきてさらっとツツコミを入れる

トワ「一応言われたばっかりだし…今日はいたずらやめるか…」

ねね「…とわわ先輩…ねねはやりませよ?」

トワ「いいけど今回はトワ手出さないよ?相手はどうすんの?」

ちつつち、指ふりをしてドヤ顔でねねは語りだす

ねね「愚問ですね、ちよこ先生です」

トワ「お前実はバカだろ」

ねね「とわわ先輩…確かにあの説教見たあとで動くのはバカだと思う

でもね

ねねはちよこ先生に説教されたいんだ」

トワ「オツケー、わかったねね、やっぱお前バカだろ」

トワの鋭いツツコミを受けてもねねは止まらない

ねね「とわわ先輩…ねね、ちよこ先生のおっぱい揉んでくる」

トワ「…」

ねね「とわわ先輩お願いツツコミ放棄しないで、ねねがただのやばいやつになるから」  
トワ「安心しな、もう充分やばいやつだ」

そう言うのとトワは座ってるゲーミングチェアを倒しアイマスクを手にとると自分も眠りについた

ねね「さて…では…」

ねねは意を決し、ちよこの眠るソファーへと向かう

ちよこは寝息をかいたままだ

ねねの口角は上がりっぱなしである

ねね「へへへへへへへへへへへへへへへへwwwwwwちよこ先生こんな無防備な寝顔を  
wwwwww」

ニヤニヤしすぎてただのおっさんのような喋り方になっている

これはひどい

ねね「それではあwいただきまーんーんーんーんーんー」  
ちよこの胸に向けてねねが手を伸ばしたその瞬間

ムニユ

ねね「…へ？」

ねねの胸を背後から揉む人物がいた

トワ「…」

ねね「と、とわわ先輩!？」

トワ「許せねねね…トワはトワが悪戯促したって思われたくない!」

ねね「とめないでとわわ先輩!揉んで説教されるなら本望です!」

トワ「だーからー!それやらせたらトワがねねねに悪戯させたみたいでスッキリしないの!」

いつの間にか組合いになりゴロゴロと事務所の床を転がる

騒音が鳴り響き、机や椅子に何度もぶつかる

そして

ちよこの寝るソファーへも激突した

ちよこ「…ん?ちよつと…騒がしいですよお二人とも…って!?!何やってるんですか!?

喧嘩!？」

トワ・ねね「違うんです!ねねねが!（とわわ先輩が!）」

ちよこ「悪戯もダメですけど喧嘩はもつとダメです!さっきのお説教じゃ足りなかつ

たようね



これは…お仕置きが必要なようですね…」

トワ「違う！トワはねねね止めようとしただけ！」

ねね「まだ何にもしてないのにい！」

ちよこ「問答無用です！そこに正座なさい！」

トワ・ねね「はあ——————ん！！！！」

ちよこ先生のような一人前の悪魔への道はまだまだ険しいようです…

## 今日のいたずら #5

ホロライブメンバーの第2の自宅、事務所

今日も悪戯好きな悪魔は頭を抱えていた

トワ「んー…ここんとこ悪戯仕掛けても全部失敗してる…いったいなぜ…」

ねね「いや、とわわ先輩のプランに問題があると思うんだけど…」

トワ「いやー！ねねねが余計なことしてるからでしょ！」

ねね「あーっ！まーたねねのせいにするんです!?!」

トワ「なに!?!」

ねね「なんですか!?!」

ぐぬぬ！と二人してにらみ合う

が、すぐに二人ともにらみ合うのをやめて

トワ「ごめん…言い過ぎた…」

ねね「こちらこそ…ごめんなさい…」

トワ「よし！こんどこそ悪戯成功させよう！」

ねね「了解です！こんどこそ！」

トワ「じゃあさ、次のターゲットは……」

二人はぐつと手を握り次の悪戯の相談を始める

ガチャ

事務所のドアが開き、2人の人物が

マリン「AHOY！みなさーん！今日もレッスンお疲れ様でしたー！」  
るしあ「こんばんはくなのです」

レッスン終わりの宝鐘マリンと潤羽るしあが事務所へとやってくる

トワ「船長、るしあちゃんこんばんはく」

ねね「レッスンお疲れ様です！」

マリン「あらあらく？とわさんにねねさんじゃないですか、もしかしてまた悪戯の相談ですかく？」

トワ・ねね（ほんとへんなとこで鋭い……）

マリン「なくんて、冗談ですよお二人の悪戯に船長が引つ掛かるわけありませんし

」

るしあ「マリリン、あんまからかいすぎないようにね？」

マリリンの軽口に☒ツとした表情を見せるトワ

るしあがゆっくり近づいてきて「マリリンさレツスンで褒められてご機嫌なの、ごめんね」とフオローを入れてくる。

ねね「あ、そういうえばマリリン先輩あてにお荷物来てましたよ？」

マリリン「え？」

トワ「あそのこの段ボールがそうだって言っていましたよ」

トワの指さした先にデスクの上に置かれた段ボール

送り先は確かに宝鐘マリリンと書いてある

マリリン（なるほど、段ボールに何か仕掛けてるんですね？ま、ここは大人の対応とし

てわざと引っかけかって説教するとしますかね）

るしあ「何が入ってるんだろ？」

マリリン「せっかくですし開けてみましょうかね」

そうやってマリリンは貼ってあったガムテープをはがし、段ボールを開ける

すると中に入っていたのは

♡るしあ♡とかかれたまな板だった

マリン（ちよつとおおおおおおおおおおおおおおお）

自分一人をターゲットとした悪戯がくると構えていたマリンは激しく動揺していた

こんなものがるしあの目に留まれば：

そう思った時には

遅かった

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

後ろから感じる殺気

それは明確にマリンに向けてられていた

ギギギギギギ

ゆつくりと後ろを振り向く

!??? ?????



【ごめーんね★ トワ】

【強く生きてください ねね】

マリリン「あんの悪魔あああああああ!!!」

るしあ「マリリン覚悟しろヨオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!」

マリリン「ぎいああああ！ぺこら！フレア!!ノエル!!!誰でもいいから助けてええええええ  
ええええええええええ!!!」

ねね「なんというか…凝った悪戯よりうまくいききましたね」

トワ「ふっふっふん、トワ達をなめた罰だよん」

ねね「るしあ先輩にはあとで一緒に謝りましょうね」（とわわ先輩も満足そうだし、こ

ういうのもたまにはいっか)

こうして今回の悪戯は成功に終わった

悪魔たちのいたずらの日々はまだまだ続くようです



## 今日のいたずら #6

ホロライブメンバーのオアシス、事務所  
今日も平和な一日

のはずだったのに

トワ「んあああああああ〜ねねね〜！トワはね！トワは眷属すつごく好きなのお〜  
!!」

まつり「わかるよ！わかるよトワちゃん！まつりもまつりす好きで好きで仕方ないの〜  
！」

ノエル「団長も団員さんだいしゆきなんれすよ〜！なくんでわかってくれないんれす  
か〜！」

ラミィ「ラミィだつて雪民さん達のこと大好きです！」

ねね「あわわわわわ…どうしてこんなことに…」

そこは酔っ払いだらけの地獄とかしていた

時は1時間ほどさかのぼる

トワ「ジューズに酒を仕込もう」

ねね「随分唐突ですね…」

トワ「つってわけでもないよ？実はさ、今日メンバー集めて雑談コラボ配信しようと思つてさ」

ねね「つてことは…配信と同時進行でドッキリ企画つてこと？」

トワは自信満々にうなづく

トワ「と、いつても前使ったみたいなさピリタスとかはさすがに危険だから、テープルに置くジューズを缶チューハイと差し替えるって感じで」

ねね「とわわ先輩似たような仕掛けで失敗は出来ないよ？」

トワ「まあ任せときなつて、今回はどーんとトワに任せておきな！」

と、言っていたトワであつたが

トワ「んにやう、みんな好きだお〜！」

完全に出れ上がった

まつり、ノエル、ラミイの3人に仕掛けるつもりが誤つて自分のところにもお酒の入ったグラスを置いていたのであつた

酒を飲んだのを察したのか、配信のコメントがざわつき始める

ねね（まずい…このままじゃリスナーさんがざわついて放送事故に…）

【これもしかしなくても飲んでるだらうwww】

【ふにやふにや助かる】

【俺も酒開けてくる】

【俺たちも好きだぞ】

【ちくわ大明神】

【おい、今の誰だ】

ねね（なんか盛りあがってる

!!!!???)

コラボ配信のはずがすっかり晩酌配信とかわして、リスナーもわいていたのだ  
しかしそれとは裏腹に、

まつり「トワちんってさくスタイルいいよね？おなかさわらしてえよお？」

トワ「んあ？いいよお？トワもまつりちゃんのおなかさわる？」

ねね「あー！まつり先輩！とわわ先輩！まずいです！まずいですって！」

配信ほったらかしでスキンシップ始まつたり

ノエル「ふうあああ…床が気持ちいい…」

ねね「ノエル先輩！そんなところで寝ちゃダメです！配信中ですから！」

ノエルが突然床で横になつたり

ねね「あーもう！ラミイちゃんも手かしてえ！」

ラミイ「ああ、困ってるねねちゃん可愛い」

ねね「普段全然酔わないのに何で今日そんな酔ってるの!?絶対この状況楽しんでるで

しょ!？」

ラミイが酔ったふりして乗っかってきたり

お酒を飲んでいないねねが必死こいて配信を成立させようと動いていた

收拾がつかないと察したのか、さすがのねねも声を上げる



いたずらはうまくいかなかったけどなぜかねね虐？はうまくいってしまったよう  
す

皆さんも

酒は飲んでも飲まれるな

に気を付けてお酒を飲みましょう

## 今日のいたずら…？

ホロライブメンバーに魔法のようなひと時をくれる場所  
事務所

桃鈴ねねはレッスンを終えてへろへろになりながら事務所へとやってきた

ねね「はあ…疲れた…お疲れ様です」

トワ「お、ねねねお疲れ」

アキ「ねねちゃんレッスン終わり？大変だったねえ」

ねね「いやあ…ホント疲れ…た…」

ねねは自分の目の前の光景が整理できなかつた

ツイントールを高速回転させて飛ぶトワと、浮いんテールに乗っているアキロゼの姿  
があつた

ねね「なんで…？」

トワ・アキ「ツインテールだから」

ねね「いや、理由になってないよ!? ツインテールだからできるじゃ限界あるでしょ!?」

ねねの必死のツツコミにも2人は首をかしげる

ガチャツ

そこへ再び事務所のドアが開き

まつり「やつほー! みんなおつかれー!」

マリリン「あらあらあらあ? 皆さんお揃いですねえ?」

あくあ「ちよつと! 事務所の中でツインテールでの飛行はやめようって話になったでしょ!」

ねね「ええ!? ツツコむのそこなんですか!? というかツインテールが飛行するの当たり前みたいになってません!」

怒涛のように投げつけられる先輩のボケにツツコミが追い付かない

トワ「まあ? トワがツインテール飛行ホロライブーですかから?」



あくあ「…それは聞き捨てならないね…」

マリリン「トワさん、甘いですね我々がいる前でそれを言うには100年早いですよ」  
まつり「じゃあ、誰が一番か競争だ！」

【望むところだ！】

全員のツイントールが高速で回転し、事務所の窓を割って外へと飛び立っていった  
ねね「え…なにこれ…どういう状況？なんでみんな平然と空飛んでんの!?なんで誰も  
ツッコまないの!?んでもって窓ガラス割って行っちゃったけど!?片づけどうすんのお  
おとおおとおおとおおとおおとおおとおおとおお!!」

ぬああああああ!と声を上げながら頭をぶんぶんと振り回すねねだったが

次第に冷静になり

ねね「にげよう…!ねねも飛んで逃げれば!」

メル「ふふふ、飛びたいの?あの空へ?」

ねね「メルメル先輩!」

ちよこ「ねね様だったらすぐ習得できますとも、さあ行きましようか」

ねね「ちよこ先生!い、いったいどこに」

メル・ちよこ「決まってるでしょ?修行!!」

どこからともなく現れたメルとちよこに連れられ事務所の外へと連れだされる

そして

ねねは修業した

滝に打たれ、野山を駆け回り、心を無にした

そして

ちよこ「ついに、飛ぶ時が来ましたね…」

メル「ねねちゃんなら大丈夫、飛べるよ！」

ねね「ちよこ先生、メルメル先輩…行つてきます！」

ねねは目を閉じると心を無にした

そして意識を神へと向けていく

徐々に髪は回転を始め

ねねの体が空へと飛びあがっていく

ちよこ「成功です！」

メル「やったね！ねねちゃん！」

ねね「こんなもんじゃ終わらない！もっと高く高いところへ行く！待っててね！先輩達！」

ねね「つていうのはどうか！とわわ先輩！」  
トワ「いや、どういことだよ」

すべてねねちの妄想でした  
つて話

## 今日のいたずら 2ndフェス編

ホロライブメンバーに寄り添い続ける場所

事務所

明日、そして明後日に2ndフェスを控えたホロライブメンバー。各々がボイトレやダンスレッスンをこなし最終調整の真つ最中だ

そんな中、事務所にやってきたのはいつもの悪戯悪魔

常闇トワだ

トワ（ボイトレ疲れたなあ…4期にとっては初めての全体ライブ…ダンスレッスンだつて必死にやってきた…）

首にはタオルを巻き、スポーツ飲料を口に含む

トワ（絶対に成功させなきゃ…絶対に…絶対に…！）

飲み切ったペットボトルを握りつぶす

トワ自身には今回のライブへ向けて特別な思いがあった

それは…

ねね「とわわせーんばい！」

トワ「うわ!? ねねね!? どうしてここに?」

ねね「なんでつて…事務所にねねがいたらだめです?」

トワ「…それもそうだね…」

トワのこわばった表情にねねは「とわわ先輩?」と不思議そうな顔をする

ねね「明日明後日本番ですね、やっぱ緊張してます?」

トワ「緊張しないときなんてないよ、配信もそうだけどさ自分には見えないけどたくさんの人に画面を通して見られてるんだからさ…それも世界中に…ね」

ねね「うーん…確かに…」

トワはペットボトルをゴミ箱にひよいつと投げるがそれはゴミ箱の淵にあたって外れる

トワはチツ!つと小さく舌打ちをするとペットボトルを拾いなおしてゴミ箱へと入れる

ねねはトワの様子があからさまに違うことに気付く

ねね「とわわ先輩…なにか思い詰めてませんか…?」

トワ「別に? ねねねに話すようなことじゃ…」

ねね「とわわ先輩、ねねはデビューして半年もない新人だけど…悩み聞くだけなら…」

できると思うんだ！」

トワはあつけにとられた表情のをした後苦笑いをして今度は不安そうな表情になる

トワ「後輩に気使わせて…嫌な先輩だね…」

ねね「とわわ先輩…？」

トワ「ねねね…トワさ、先輩たちの1stフェスすっごく感動したんだ…」

2020年1月24日に開催された1stフェス

ノンストップ・ストーリー

デビュー間もないホロふおーすのメンバーであったトワは同期とともにその様子  
をライブビューイングで見守っていた

トワ「いつかはあややって舞台上がる…トワの歌をみんなに届ける…それがアイ  
ドルとして、ホロライブの一員としてトワに出来ることだっと思って思ったんだ…」

でもね…トワはホロライブ全体に迷惑をかけるようなことをした…」

デビューから2か月あったある日…

とあることが発端でトワは1週間の謹慎処分を受けた

顔も名前も知らない人々から寄せられるバッシング

自分の知らないところで飛び交う憶測

今まで体験したことのないようなネットからの攻撃

本人に非がなかったわけではない

が、それによってトワ自身がどれほど傷ついたかは本人しかわからないし想像もつかないものである

トワ「そんなトワをさ：メンバーのみんなも：リスナーの皆も待ってってくれる人がいた：だから：その恩返しをしなきゃいけないんだ：」

拳を握る力が次第に強くなっていく

トワ「明日は失敗できない：失敗して：台無しになんてしたくない！」

ねね「とわわ先輩：」

トワ「不安で仕方ないんだ：どんなに練習しても：配信で褒められても：もしつてお思ったら：「ふううううう」ひゃいひゃいひゃいひゃいひゃい!?」

トワの背後から何者かが近づき、耳元に吐息をかける  
びつくりしたトワは後ろに振り向く

そこにいたのは

自分を支えてくれた同期達の姿

かなた「なーに言ってるんのさトワ！」

ココ「迷惑かけたのはワタシ達だって同じですよ？」

わため「トワちの優しさにいつも支えられてるよ！」

ルーナ「トワトワが頑張ってるのルーナも見てるのら！」

【胸張って！楽しんで！自分たちの歌を届けよう！】

トワ「楽しんで…」

ねね「とわわ先輩…生意気な後輩かもしれないけど…とわわ先輩が楽しそうに歌って踊る姿！ねねもみたいから！だから…うまく言えないけど！頑張るんじゃないかって！楽しんでほしい！」

トワ「ねねね…」

トワは袖で顔をゴシゴシとすると

ねねの方に軽く肩パンをする

トワ「見とけよねねね…」



お前の先輩が

最高のステージにするとこ！」

そこには最高の笑顔で仲間のもとに歩む悪魔の姿があつた

h o l l i v e 2 n d f e s . B e y o n d t h e S t a g e S u p  
p o r t e d B y B u s h i r o a d  
輝くステージを共に：

## 今年最後の…

大晦日

ホロライブの事務所

先日まで置いてあった2ndフェスやクリスマス絡みの書類や荷物は運びだされしめ飾りや門松、鏡餅

すっかり年越しの準備完了といったところだろう

トワ「あつという間だったなあ…もう2020年終わっちゃうんだ…」

かなた「最近レッスンだったりフェスだったり大忙しだったね」

トワ「そうだね…」

どこことなく元気のないトワを見て手にした餅を頬張りながらかなたは首をかしげるかなた「トワ？」

トワ「…かなた、アイドルやっててよかったと思う？」

かなた「ぬ^!？」

トワの突然の問いかけにあなたは思わず餅を詰まらせる

トワ「ちよ!?! かなた大丈夫!?!」

かなたの様子を見て焦ったトワは水を手渡しポンポンとかなたの背中を叩いたりさ  
する

かなた「げほっ! げほっ! …ご、ごめん…びつくりしすぎて詰まった…」

トワ「いや、トワがいきなり話題ふったからだ…ごめん…」

かなた「いや、急にどうしたのかなって思ってたけどさ」

トワ「色んなことがあったけどさ…気が付けば1年経っちゃったんだなって…」

そう言つてトワは窓の外を見つめる

それを見たかなたは語りだす

かなた「…ボクはさ、アイドルって応援する側だったんだよね

なんていうか…舞台の上でキラキラしてて、みんなを笑顔にする

それを見たボクは言葉ではない表せないような力が湧いてくるっていうかさ」

トワ「…」

かなた「その舞台に…ボクは立つことが出来た

夢みtainな話だけど

それが現実になった

オープンングアクトではあったけど4期生全員で

アイドルとしてあのステージにたてた…」

かなたはぐっと拳を握り締めるとトワの隣に立って空を見つめる

かなた「無観客のライブで…オープンングアクトで…アイドル衣装も着れなかったけどさ」

へい民のみんながさ、「かつこよかったよって」「最高のステージだったよって」言ってくれたから

アイドルやっててよかったって…そう思えたよ」

トワの視線に映ったのは満面の笑みの天使

トワはそれを見てクスツと笑うと

トワ「トワだってそうだよ？」

眷属のみんなはいっぱい褒めてくれたし、初めて見たって人もライブ凄かったって言ってくれた

でも、やっぱり悔しかったな…

先輩たちの背中を追うだけで終わっちゃった…

だから…次は絶対先輩たちの横に並んで…一緒に歌う！」

トワは握った拳を突き出す

あなたは一瞬ビククリしたようだったが  
トワの拳に自分の拳をコツンと合わせた  
その瞬間、トワが目くばせをする

すると

ココ「でつでー！」

ルーナ「ドツキリ大成功なのらー！」

ソファアの裏から「ドツキリ大成功」とかかれた看板を持ったココと襷を付けたルーナが現れる

あなたは何が起こったかわからずに絶句している

トワはいえーい

トワ「と！いうわけで！」

ココ「天使に悪魔がしんみりとアイドルになってよかつたと思う？と聞いたら天使はスパダリムーブするのかドツキリ！」

ルーナ「ばっちり大成功なのらー！」

あなた「な、なんだそれ…って…あれ？」

グスツ…グスツ…

とすすり泣く声に吊られ、ソファアの裏をのぞき込むとそこには

わため「グスツ…グスツ…ええはなしやった…」

顔をぐしやぐしやにしながら号泣するわためがいた

ルーナ「いやーほんとに泣きそうになったのらー」

ココ「あなたんオメーそこはぎゅつと抱きしめるとこだろうよお？」

トワ「ココちゃん！それはトワが恥ずかしい奴じゃん！もー！」

かなた「ははは…なんていうか4期だなんて感じだ…」

歌もゲームも活動方針もバラバラな4人

そんな5人も続々と活動1周年を向けていた

ココ「おっし！公式配信終わたら5人で初詣じゃい！」

トワ「お、いいねえ！おみくじ引こうよおみくじ！」

ルーナ「ルーナ屋台行きたいのらあ」

わため「グスツ…みんなで新年に突撃だ！ドドドドド！」

かなた（…これが今年最後の悪戯ってことかな？なんていうか…こんなあったかい悪

戯って…あるんだね）

かなたは袖で顔をぬぐうと

かなた「みんな！

来年もこの5人で！がんばっていこうな！」

来年も

その先も

5人のアイドルがともにあることを

ねね「うおおおおおおおおおん!!!!!!」

ラミイ「てえてえ…てえてえだよ先輩達！」

ポルカ「ねね…ラミイ…泣きすぎ…ヴえ…」

ぼたん「はいはい、おまるんも鼻水でてつぞ

（頑張ろうなみんな…

次は…

私たちの番だから！」

そして少女たちは

新たなステージへ

T o b e c o n t i n u e d …



# 最終回 これからの1年を…

2021年 正月

ホロライブ事務所

ねね「ふんふんふん♪」

桃鈴ねねは事務所で一人いそいそと準備をしていた

ラミイ「あけましておめでとうございまくす…あれ？ねねちゃんなにしてるの？」

ポルカ「お!?新年早々いたずらかく？あたしも混ぜろー!」

そこへ同期である5期生の面々がやってくる

事務所の中には紙テープや作りかけのくす玉

ねね「へえ？あ、あーうん…そうそう！いたずら！いたずらしようと思ってる!」

ぼたん「いたずらなのに紙テープで飾り付け？どっちかっていうとお祝いって感じ

じゃない？」

ビクツと小さく跳ねるようなりアクションをするねね

目は泳いでいて冷や汗のようなものも見える

ねね「いや、違うよ？そんなんじやーないよ？」

ぼたん「フーン…まあいいけどさ、ターゲットはやっぱりトワ様？」

ねね「そ、そう！とわわ先輩！新年一発目のいたずらは普段いたずらしてきてるとわわ先輩じゃないと！」

ラミイ「ねねちゃんなんか変だよ？どうかした？」

またもビクウと体を震わせるがブンブンと首を横に振ると

ねね「なんでもない！大丈夫！」

ポルカ「さてと、悪戯に使えそうなものは…お、これなんていいかも！」

1時間ほど後

事務所に晴れ着姿の少女たちがやってきた

トワ「にしてもさ、こないだの初詣よかったね〜」

ルーナ「屋台のたこ焼きおいしかったのら〜」

ココ「さすがに寒かったですけどねえ」

かなた「いや、ココの場合は上半分脱いでるようなもんだからじゃない…？」

わため「でもこうして5人で初詣出来てよかったよ」

4期生の面々だ

それぞれ新しく晴れ着をそろえて事務所へあいさつに来たようである

5期生の面々は机やソファの裏、スタンドパネルの後ろ、天井に潜んでその時を待

つ

かなた「ん？あれなんだろう？」

そう言つてかなたが指差す先を他の4人が見つめる

そこには

天井からつるされたくす玉

ここはアイドル事務所

何とも言えない異物感が際立つ

わため「これって…くす玉…であつてるよね？」

ココ「たれてる紐引けつてことか？」

ルーナ「どー考えても怪しいのら」

トワ「(…こういうの仕掛けるのつてもうわかりきつてるけど…先輩としてここは  
ちやんと乗つてやらなきゃだ…)

とりあえず、引いてみりゃあわかるんじゃない？」



それを事務所の床へとたたきつける  
 Bannon!

【うわっ!?!】

盛大な台パンの衝撃でパネルが倒れたりドアが開いたりと  
隠れてた5期生の姿が露わになる

天井に張り付いていたポルカに至っては床にたたきつけられる

トワ「ねねねと尾丸だけならまだしも…ラミイちゃんと獅白ぼたんまで…」

ラミイ「すいません…」

ぼたん「ははっは…面目ないです…」

トワ「…もーいいや…で?なんで今回は4人でいたずら?」

その言葉に反応したのかねねは一変して笑顔になると5期生にアイコンタクトする

ねね「それ は」

トワ以外のメンバーがクラッカーを取り出し

【トワ先輩…1周年!おめでとぅございます!!!】

5期生の言葉をトリガーに一齐にクラッカーを鳴らす

トワは事態が呑み込めず呆然としている

ラミイ「ごめんなさいトワ先輩…こういうことなんです」

ポルカ「いやー！ねねから4期の先輩方のサプライズパーティーしようって言われましてね」

ぼたん「4期の皆さんのお祝いなんですけど、今日ってトワ様がちょうど記念日だったんで」

ねね「普通にお祝いすればよかったですけど…ちよつと魔が差しました…」

4期生の方に振り替えるトワ

かなたが申し訳なさそうに「ごめん、知ってた」と小さく頭を下げてる

トワはおっきな溜息を吐くと

5期全員にデコピンをしていく

トワ「これでいたずらの分は不問にしてあげる、お祝い…ありがとう」

トワから飛び出した感謝の言葉に

ねねは満面の笑顔でトワに抱き着く

ねね「はぁーん！とわわ先輩かわいー！大好きい！」

トワ「ちよ！抱き着くな！やーめーろ!!」

それを見て和んだのか、ほかの面々もハグやハイタッチをする

そして

ココ「今年1年！」

わため「みんなで！」

ルーナ「楽しく！」

わため「健康に！」

トワ「過ごせるよう祈願と！」

ラミイ「あの輝かしい舞台に！」

ぼたん「みんなですろって上がれますように！」

ねね「思いを込めて！」

ポルカ「実りある1年にしていきましょう！」

【乾杯！】

今年1年が彼女達の更なる飛躍につながりますように…